

## 八王子市生涯学習審議会会議録 (要点筆記)

会 議 名	平成 25 年 1 月 八王子市生涯学習審議会	
日 時	平成 25 年 1 月 29 日 (火) 午後 6 時 30 分～7 時 30 分	
場 所	八王子市生涯学習センター 第 2 学習室	
出席者氏名	委 員	浅野 里恵子、大橋 道代、加藤 一詞、桑田 孝子、小林 正博 炭谷 晃男、瀬沼 克彰、堀内 進一、三浦 眞一、山崎 恵子
	事務局	宮木生涯学習総務課長、串田主査、鶴田主任、 新井学習支援課長、田代主査
欠席者氏名	大神田 久、松村 洋子	
議 事 案 件	≪報告事項≫ 1 教育委員会定例会における関連事項について 2 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会について ≪議 題≫ 1 現役世代に対する生涯学習の支援のあり方について	
配 付 資 料 名	・受講者アンケート資料 ほか	
会 議 の 内 容	<p>1. 開 会 三浦会長</p> <p>2. 定足数の確認 出席者 10 名、会議の成立を確認</p> <p>3. 会議録署名委員 浅野委員を指名</p> <p>4. 議 事</p> <p>≪報告事項≫</p> <p>(1) 教育委員会定例会における関連事項について          教育委員会定例会の議事案件の中から生涯学習関連事項について報告(会議次          第 2 ページ参照) 報告：生涯学習総務課長</p> <p>【質疑応答】          (なし)</p> <p>(2) 平成 24 年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会について          報告：事務局 鶴田主任</p> <p>日時：12月1日(土)午後1時から4時15分          場所：稲城市中央文化センター          参加者：三浦会長、炭谷副会長、桑田委員、事務局鶴田主任          ※当日資料の配付をもって報告とする。</p> <p>【質疑応答】          (なし)</p>	

<p style="text-align: center;">会 議 の 内 容</p>	<p style="text-align: center;">《議事案件》</p> <p>(1) 現役世代に対する生涯学習の支援のあり方について</p> <p style="text-align: center;">配付資料の補足説明 <span style="float: right;">説明：田代主査</span></p> <p>資料1：生涯学習審議会資料（前回の会議内容のまとめ）</p> <p>資料2：生涯学習センター市民自由講座の全時間帯の受講者年齢層一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各講座の実施回数ごと、60歳未満の受講率が高い講座順に掲載</li> <li>・語学系・趣味的な講座は回数が多く、人気もある。</li> </ul> <p>資料3：今後受講してみたい講座（受講者アンケートより）の上位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象33講座</li> <li>・20～30代：体を動かす講座、料理、資格取得</li> <li>・40～50代：お茶、歴史、文学等</li> </ul> <p style="text-align: center;">以上の資料も参考に、今後の検討項目として（1）20～30代前半、（2）30代後半～40代、（3）50代といった年齢区分に対応した支援策について意見をいただきたい。</p> <p>瀬沼副会長      縦軸を世代でみる切り口として、横軸は需要と供給でみる切り口とで考えないと、これから新しい講座を考えて行くにあたって議論が深まらない。生涯学習センターでは、現在7割が中高年向きの講座になっているので、若者向けの講座率を上げるということ、またその講座を組み立てるために若者のニーズをつかむということが大事である。</p> <p>炭谷副会長      公的機関として提供するにふさわしいかという視点も必要である。民間と同種の内容を提供するのでは意味がない。</p> <p>浅野委員      子育て中の親が参加できるように、ほっとタイムサービスの周知も重要、また生涯学習講座の中で子育て講座を取り上げることを希望する。</p> <p>三浦会長 山崎委員      他市の状況の調査も重要な項目の一つに挙げたい。 若い世代はすぐに役立つ講座を求めている。若い人のニーズをつかむ場が必要。若い世代は、パソコンなどは基礎ではなく応用的なところにニーズがあるのではないか。また、大学の特色に特化した講座があると八王子の特色になるのではないか。大学の力を借りるのも一つの方法である。</p> <p>糸田委員      行政が提供する場合は、費用が安価で質の良いものということも重要な要素である。</p> <p>小林委員      市民自由講座の有料・無料の違いは何か、また申込段階で年齢を記載してもらって、若年層を優先するなどの方法もあるのではないか。</p> <p>学習支援課長      市では不必要な個人情報の収集をしない方針になっている。市民自由講座については申込みに年齢要件がないため、ほかに理由がなければ年齢を書いてもらうのは難しい。</p> <p>三浦会長      年齢データが必要であれば、集め方を検討する必要があるということになる。</p>
--	---

会議の内容

- 田代主査 市民自由講座の有料・無料の区分けについては、講師謝礼の有無による。講師に謝礼を支払う講座は受講料として 200 円を徴収している。
- 三浦会長 パソコンに関する講座の需要が多いようだが、若年層の需要もあるのか。若い人はパソコンに代わる I C T 講座の需要があるのか。
- 大橋委員 若い人はスマートフォンで情報を収集し、その場ですぐに利用申し込みをする手軽さに慣れている。申し込み方法がファックスや電話、はがきなどではなく、その場で可能という方法にすることも必要ではないか。
- 山崎委員 スマートフォンからの申し込みは可能になっているのか。
- 学習支援課長 技術的にはできるが、市では対応していない。
- 三浦会長 若い世代が使用しているツールに、行政側が対応できていないということになる。
- 生涯学習総務課長 気軽に申し込めるといふことの裏返しで、キャンセルも多くなるという問題もある。
- 三浦会長 若い世代が使用するタブレット端末に対応した機能が必要ということになる。講座の内容もタブレットに関する内容にしないと申し込みがこないということが言える。
- 大橋委員 パソコンから申し込みができるものがたくさんある中で、今のやり方は手間がかかり過ぎることになる。
- 堀内委員 ウェブ端末から手続きができることが日常生活の一部になっている。ただ、キャンセルの件は懸念が残る。
- 三浦会長 ファックス等での申し込み比率はどうなっているのか。
- 学習支援課長 現在は往復はがきが主流でファックスは受けていない。申し込み方法については I T 利用の要望も多く、検討をしないといけないという認識は持っている。ただ、新たなシステムを入れる場合には個人情報管理の問題や経費の問題があり、手を付けかねているというのが現状である。インターネットメールなど、今あるフォームを活用して対応するとすると、年間 1 万数千件の申し込みには対応できない。
- 炭谷副会長 初期投資や導入時の手間は必要かもしれないが、長期で見ればシステム導入は手間や経費の削減に繋がる。ただ、はがきやファックスという手段を残すというのも、I T をあまり利用しない高齢者層への対応として必要である。
- 三浦会長 若者向けに着付け講座があるが、着物が無くても受講可能なのか。
- 田代主査 着物を持っている方が対象になる。それから受講料の他に材料費は実費負担をお願いしている。
- 三浦会長 着物の着付けができない人に着物持参の講座というのは、そこで対象を限定することになるのではないか。
- 学習支援課長 受講にあたって必要な用具を持っていない人には、レンタル品を安価でご案内をすることもある。受講料の他にご本人負担していただくことにはなるが、道具を持っていなくても受講できるということにはなっている。ただ着物など対応できていない講座も中には出てくる。

会議の内容	山崎委員	民間では用具をほとんど持たずに受講できるものが多い。そういったシステムになっていれば勤め帰りに気軽に立ち寄れる。そんなことも検討できれば勤めている人も参加できる。
	田代主査 三浦会長	ヨガマットなど、会場で準備している講座もある。 クリエイトホールに備品の用意がある講座、受講者が道具を揃える必要がある講座の区分けがわからないと、若い人を集めるための講座について議論をするのが難しい。
	炭谷副会長	全てが用意されているのは参加しやすいが、参加するだけというのはどうなのか。周りが準備し過ぎるという傾向が強すぎるのではと思うことがある。とって、敷居が高すぎるというのでもいけないし、そのあたりのバランスが難しい。
	三浦会長	民間とは参加費用が違い過ぎるので、まったく同じ設備を要求するというのは無理がある。その辺のところ、今回の議論の中核となる。たとえば、必要な備品は市民に不用品の提供を問いかけてみるという手法もあるかもしれない。その他現役世代ということで40代50代への支援策として何か意見があればお願いしたい。
	加藤委員	商業ベースになるが、呉服店が若い世代を対象に浴衣を着て町を歩いてみませんかという催しを行うと、20代の参加者がたくさん集まるという事実もある。平日の昼間にやる料理教室でも結構人は集まっている。そういったものにどのように戦いを挑むのか。選べる時間も自由度が高いという相手に対して、付加価値を付けて行かないと厳しいということになる。それと、八王子市のホームページは未だに非常に解り難い、申し込みなどもしにくく遅れ過ぎている。携帯も間もなく終了するという時代に、どんどん先を読んで対応していかないと遅れてしまう。
	大橋委員	現役世代は幅が広い。本当に若い世代に来てもらいたいのであれば、対象が誰であるのかをアピールしていかないといけない。たとえば、安全な登山の心得でなく、若い人が参加したくなるようにタイトルを工夫してみるなど……。30代になっても仕事帰りに講座へ参加する女性が多くなっている。そういう若い人の気持ちをつかむ内容や名前を持ってくれば参加する人もいると思う。とにかく、講座の名前が古い。
	三浦会長	本日の審議はこれまでとし、次回継続審議とする。なお、今後のスケジュールは、2月各論審議、3月答申文案の作成、5月に最終内容確認を予定しているのでご協力をお願いする。次回は2月26日（火）午後7時から生涯学習センターにおいて開催したい。詳細は別途事務局より通知する。本日の会議は以上をもって終了とする。
	5. 閉 会	（午後7時30分）

上会議録は事実に相違するところがないことを認め、下に署名する。

八王子市生涯学習審議会会長

八王子市生涯学習審議会委員

会議の内容